



JA共済連と早稲田大学が共同で寄附講座を開設

～三陸沿岸地域の震災復興・農村経済へのアプローチをテーマに～

2012年3月14日

この度、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下 WAVOC)と、JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)は、共同で三陸沿岸地域の震災復興・農村経済へのアプローチをテーマとする寄附講座を2012年4月より3年間継続して開講します。

1 本講座開講の意義(早稲田大学)

農山漁村に興味を持つ早稲田大学の学生は少なくありませんが、農村地域について体系的・実践的に学ぶ機会は限られています。本講座は学生の知識欲求に応え、震災の影響を受けた農村地域の諸問題について考える機会を提供します。また、学生は被災地に赴き、震災復興に向けた活動を行います。机上の学習だけではなく実際に現地で地元の方々と共に活動することは学生にとって大きな糧になると言えます。

2 本講座開講の意義(JA共済連)

「一人は万人のために、万人は一人のために」。この「助け合い」の精神を事業理念に、JA(農業協同組合)の行うさまざまな事業の一環として、JA共済はあります。2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに「絆」や「助け合い」といったことの重要性が再認識されており、これは、まさに協同組合、共済事業の理念と相通じるものであることから、本寄附講座を開設することとしました。早稲田大学の学生が、「震災復興」や「農村社会」を通じて、「絆」や「助け合い」の重要性を学ぶ機会を提供できることは、極めて有益なものであると認識しております。

3 講義概要

(1) 講座名:震災復興のまちづくり(JA共済寄附講座)

期 間: 2012年4月～2013年3月

講座内容:「東北の新たな食の流通文化を創造しよう」をテーマとして、受講生と気仙沼関係者が実行委員会を組み、気仙沼での実習を経て復興の課題を明らかにし、魅力づくり、観光、まちづくりへつながる政策を学生が提案します。水産加工や野菜の魅力を熟知した各界の専門家に協力をお願いし、専門家の知恵と消費地東京の生活者や若者の声を反映させながら、次世代の食文化の可能性を拓いていきます。また、講義とあわせてイベント「かつお×江戸野菜祭り」を秋に東京で実施予定です。

(2) 講座名:農村地域の経済と社会を見る目(JA共済寄附講座)

期 間: 2012年4月～2012年9月

講座内容:農山村社会の成り立ち、農業政策の展開と現状、JA等協同組合の役割、共済・保険の仕組みと役割、地方分権、地方財政問題、地域振興(六次産業化)、TPP問題を学びます。

※ 2012年は国際協同組合年であり、JA共済は国際協同組合年に向けた取組みを推進しております。両講座はその取組みの一環として、2012国際協同組合年全国実行委員会より後援を受けています。